

令和6年2月14日	
所 属	情報指令課
所属長	西山 善規
電 話	06-6481-3968

令和5年火災・救急・救助概要について

1 趣旨

市内において、火災予防や救急車の適正利用を促すため、令和5年中に発生した火災、救急、救助に関する概要を広く周知します。

2 対象期間

令和5年1月1日（日）～令和5年12月31日（日）

3 各概要における項目

(1) 火災概要

火災の発生状況、出火件数、焼損床面積及び損害額、火災件数の推移、出火原因、住宅火災の出火原因

(2) 救急概要

過去10年間の救急出動件数の推移、程度別、年齢区分別、事故種別

(3) 救助概要

救助隊配置体制、救助工作車配置体制、出動件数、室内閉じ込め救助件数

4 その他

令和5年火災・救急・救助概要の詳細については別添のとおり

以 上

令和5年火災概要

火災の発生状況

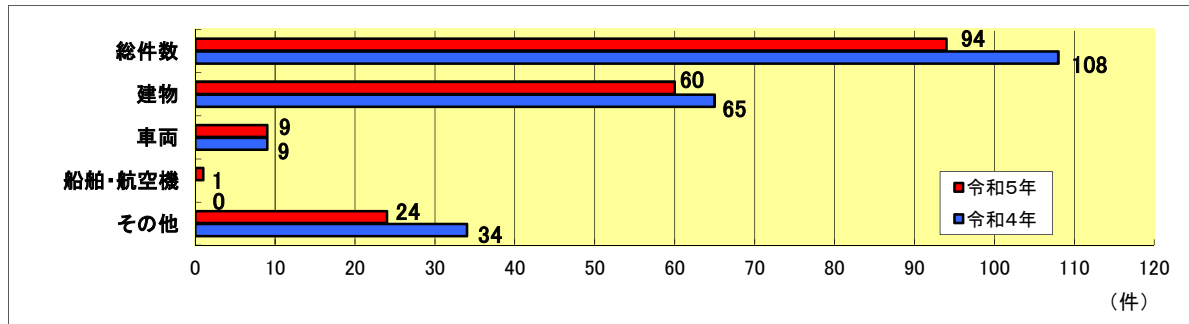
- 令和5年中の火災件数は94件で、焼損床面積は282㎡、損害額は46,148千円、死者2名、負傷者10名となりました。

令和5年	
件数	94件
焼損床面積	282㎡
損害額	46,148千円
死者	2名
負傷者	10名

令和4年	
件数	108件
焼損床面積	1,104㎡
損害額	136,110千円
死者	2名
負傷者	19名

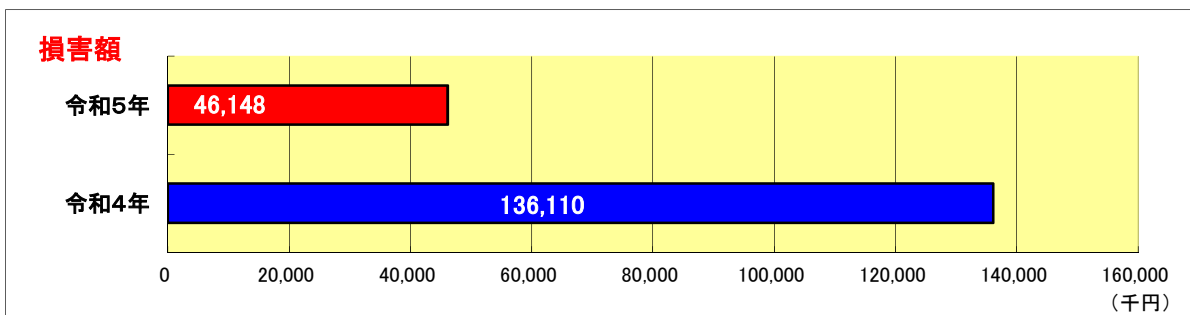
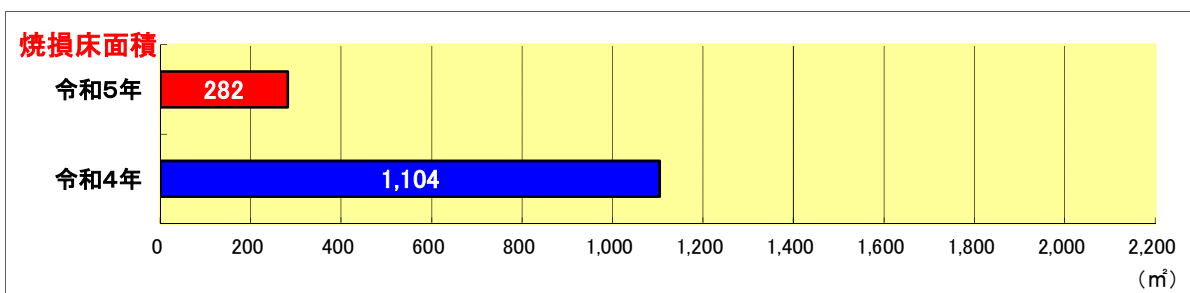
出火件数

- 出火件数は、前年の108件から14件減少し、94件となりました。
- 火災種別ごとでは「建物火災」が60件で5件減少、「車両火災」が9件で増減なし、「船舶火災」が1件で1件増加、「航空機火災」は0件で、「その他火災」が24件で10件減少しました。



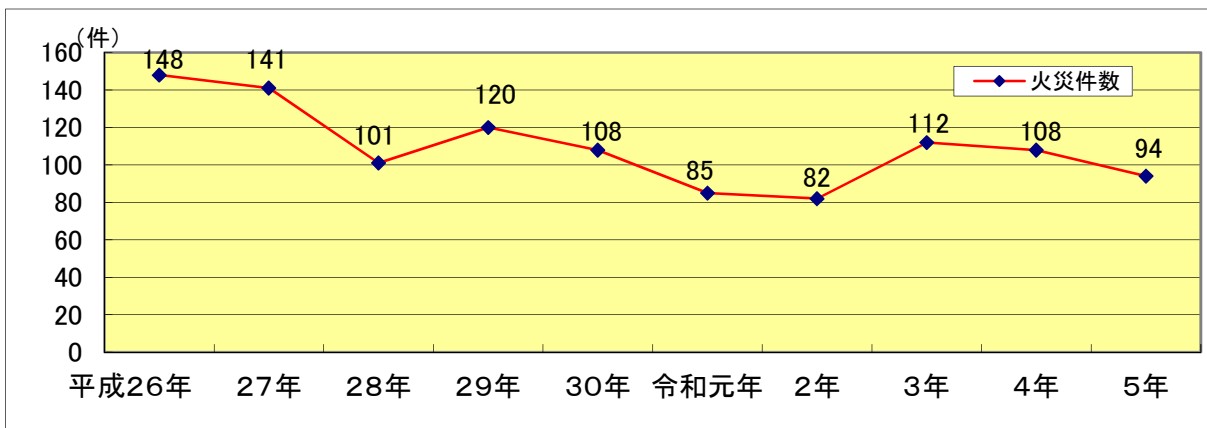
焼損床面積及び損害額

- 焼損床面積は、前年の1,104㎡から822㎡減少の282㎡、損害額は前年の136,110千円から46,148千円減少の46,148千円となりました。



火災件数の推移

- 令和5年中は94件で、前年より14件の減少となりました。
- 過去10年間の平均は109.9件です。

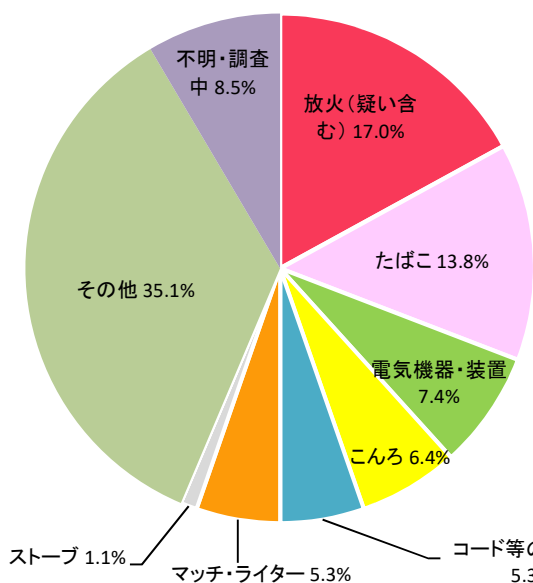


出火原因

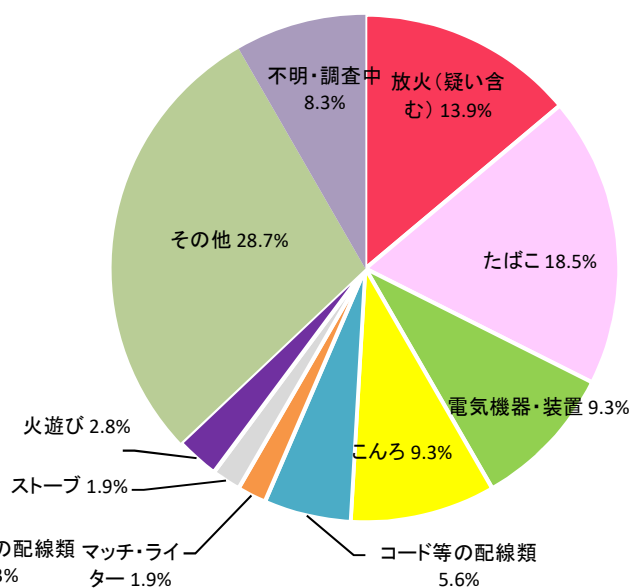
- 主な出火原因をみると、1位は「放火(疑い含む)」の16件で1件の増加、2位は「たばこ」の13件で7件の減少、3位は「電気機器・装置」の7件で3件の減少となりました。
- 各出火原因の全体に占める割合は、上位から「放火(疑い含む)」、「たばこ」、「電気機器・装置」、「こんろ」となり、合計件数は42件で、割合は44.7%となりました。

区分	令和5年	令和4年
放火(疑い含む)	16件	15件
たばこ	13件	20件
電気機器・装置	7件	10件
こんろ	6件	10件
コード等の配線類	5件	6件
マッチ・ライター	5件	2件
ストーブ	1件	2件
火遊び	0件	3件
その他	33件	31件
不明・調査中	8件	9件
合計	94件	108件

令和5年



令和4年



※四捨五入しており、100%にならない場合があります。

住宅火災の出火原因

- 住宅やアパート・マンションなど住宅火災全体の件数は36件で、前年と増減はありませんでした。
- 令和5年中の出火件数94件に占める住宅火災の割合は、38.3%となりました。
- 住宅火災における出火原因の主なものとして、「たばこ」、「こんろ」、「マッチ・ライター」、「放火（疑いを含む）」となり、その原因が住宅火災全体に占める割合は55.6%となりました。

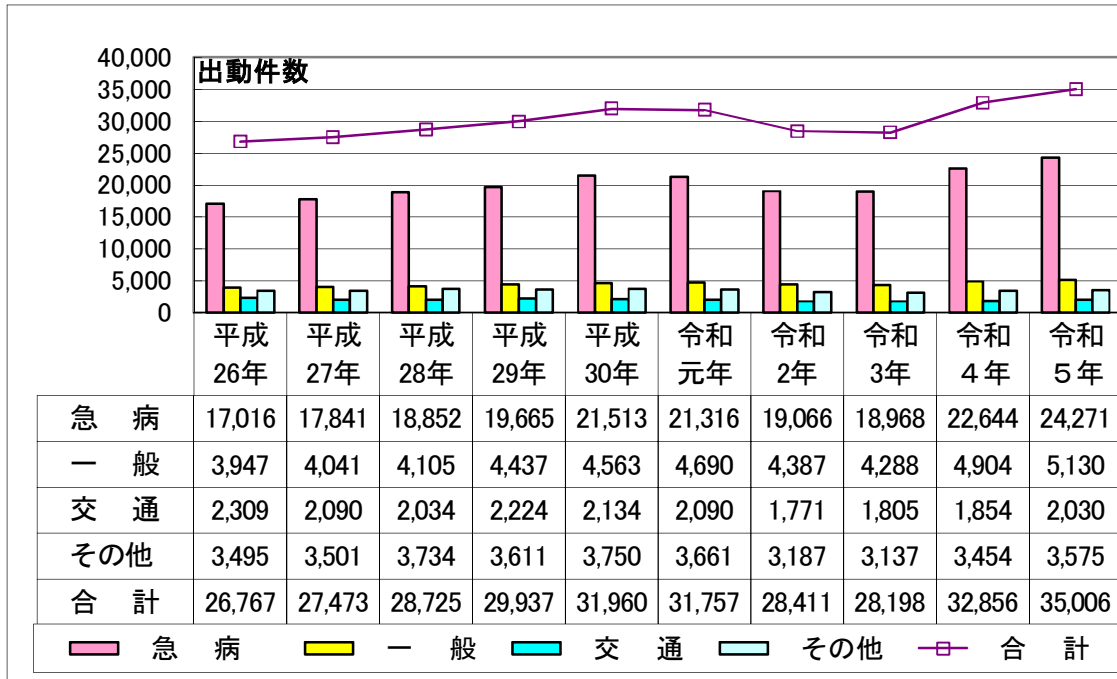
建物別	年別	計	放火（疑い含む）	たばこ	こんろ	火遊び	マッチ・ライター	ストーブ	電気機器・装置	コード等の配線類	その他	不明・調査中
一般住宅	令和5年	13	1	2			2	1	1	2	3	1
	令和4年	18	1	5	3	1	1	1	3	2		1
併用住宅	令和5年	2									1	1
	令和4年	1			1							
共同住宅	令和5年	21	3	6	4		2				4	2
	令和4年	17	1	5	4		1	1	1	1	2	1
合計	令和5年	36	4	8	4		4	1	1	2	8	4
	令和4年	36	2	10	8	1	2	2	4	3	2	2

令和5年救急概要

令和5年中における救急出動件数は35,006件（前年32,856件）で2,150件（6.5%）の増加となり、搬送人員は29,019人（前年26,330人）で2,689人（10.2%）の増加となっています。1日平均は96件（前年90件）で約15分に1件の割合で救急隊が出動したことになります。

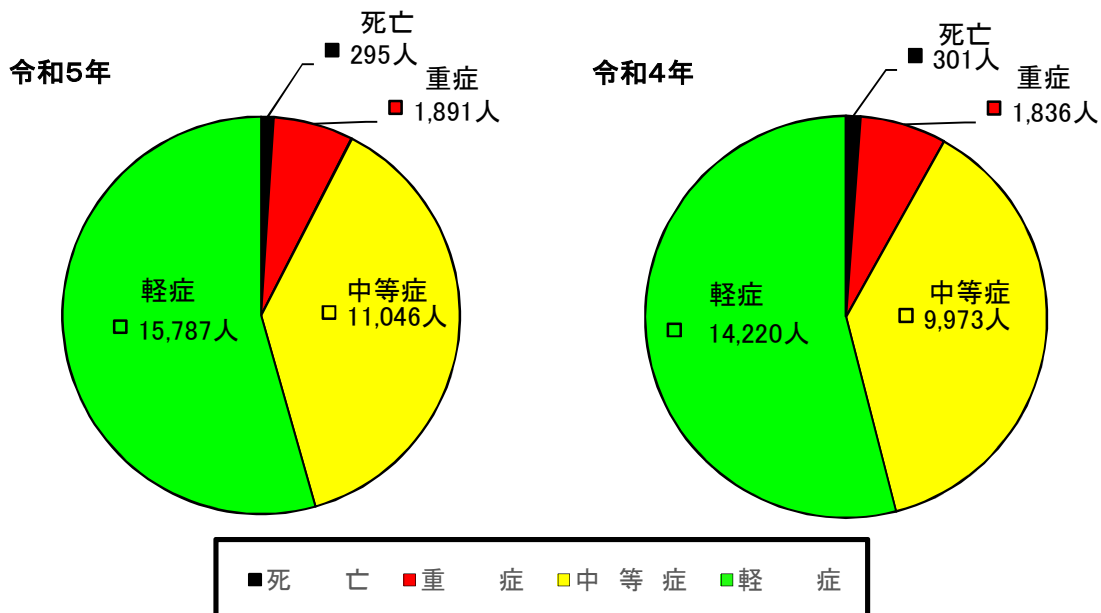
過去10年間の救急出動件数の推移

- 過去10年間の救急出動件数をみると、平成30年までは毎年増加、令和元年からは3年連続で減少に転じましたが、令和4年以降は増加傾向となっています。



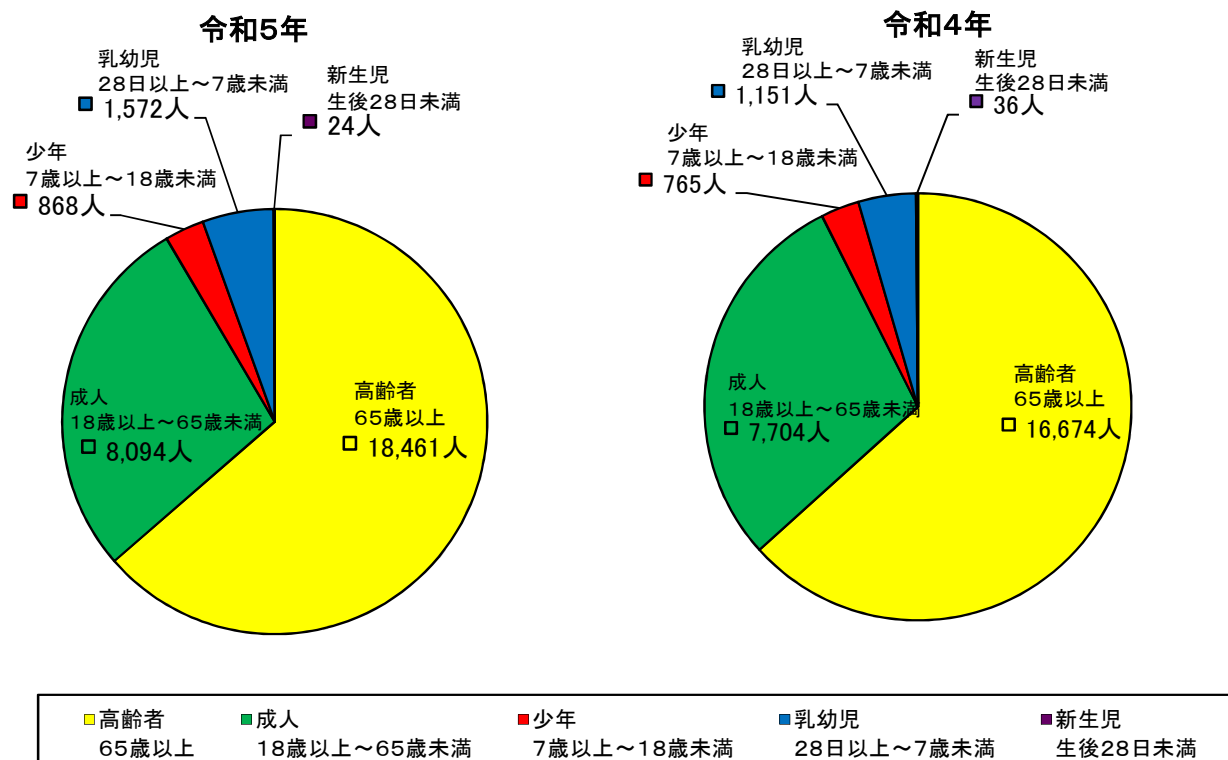
程度別

- 搬送人員を程度別にみると、軽症15,787人（前年14,220人）で1,567人（11.0%）の増加、中等症11,046人（前年9,973人）で1,073人（10.8%）の増加、重症1,891人（前年1,836人）で55人（3.0%）の増加、死亡295人（前年301人）で6人（2.0%）の減少となっています。



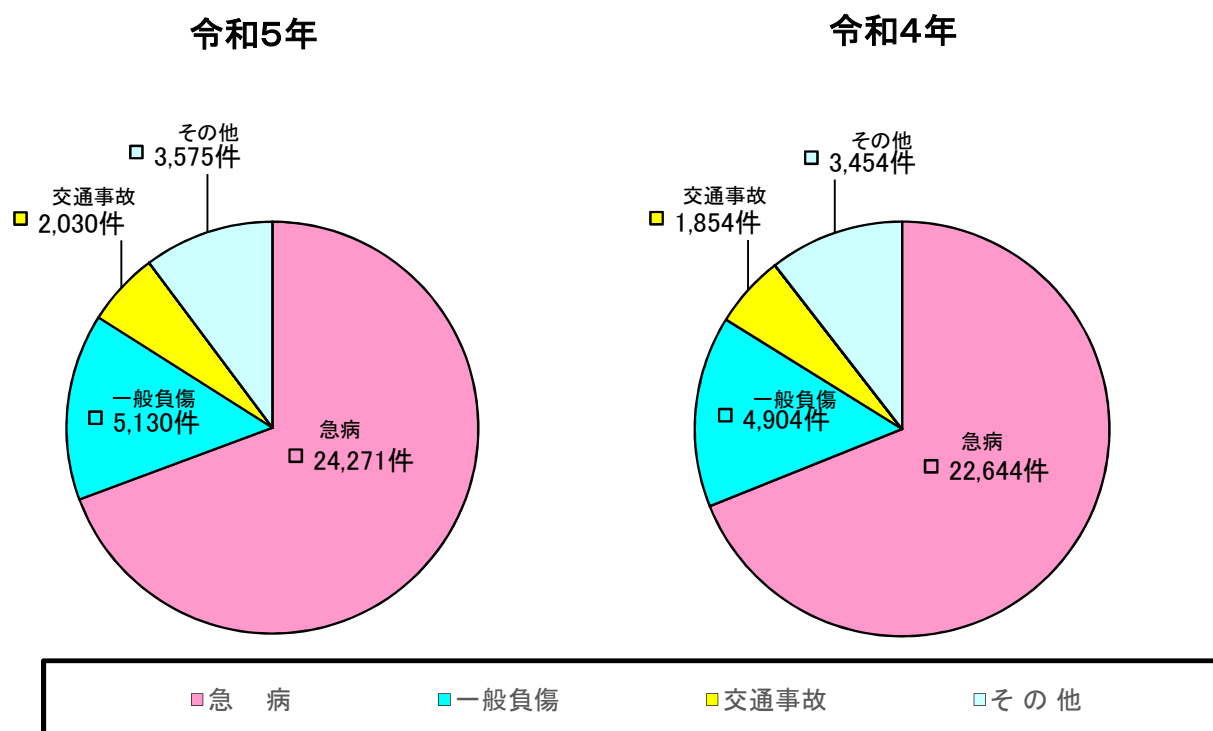
年齢区分別

- 搬送人員を年齢区分別にみると、高齢者が18,461人で最も多く、全体の63.6%で、以下、成人、乳幼児、少年、新生児の順になっています。



事故種別

- 出動件数を事故種別でみると、急病が最も多く全体の69.3%で、以下、一般負傷、交通事故の順になっています。



令和5年救助概要

- 本市の救助体制は、高度救助隊1隊、特別救助隊1隊、署救助隊2隊、水難救助隊1隊の計5隊の救助隊を配置しています。
- 救助工作車は2台を有し、市域の南部に1台、北部に1台を配置し、あらゆる災害における救助体制の拡充、強化を図っています。
- 令和5年中の救助件数は765件（前年700件）で65件（9.3%）増加し、出動延べ隊数は、1,215隊（前年1,192隊）で23隊（1.9%）の増加となっており、事故別にみると建物等による事故が最も多くなっています。
- 近年では、室内閉じ込め救助が増加しています。この室内閉じ込め救助とは、何らかの理由により、自力でドアを開けて外に出られなくなった又は室内に人がいると思われるが、安否の確認が出来ない状態のことであり、救助出動件数765件のうち512件（66.9%）がこの室内閉じ込め救助出動となっています。

